

## (6) ファカルティ・ディベロップメント委員会

## ① 設置の趣旨（目的）及び組織

## ア 組織設置の趣旨（目的）

ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）委員会は、上越教育大学における教育活動の質的向上と発展を期して、FD活動を実施することを目的としている。

## イ 組織の構成及び構成員等

FD委員会は、①FD担当の副学長、②各専攻・コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、③その他学長が指名した者の計12人で構成されている。

## ② 運営・活動の状況

## ア 委員会等の開催状況

令和3年度においては、以下のとおりFD委員会を5回開催した。

- ・ 第1回 令和3年5月13日（木）
- ・ 第2回 令和3年9月10日（金）
- ・ 第3回 令和3年11月10日（水）
- ・ 第4回 令和3年12月2日（木）
- ・ 第5回 令和4年3月4日（金）

令和3年度FD研修会及びFD講演会の内容を検討するため、令和3年6月21日（月）、令和3年8月17日（火）にFD研修会・講演会検討WGを開催した。また、「学生による授業評価アンケート」項目を検討するため、令和4年1月25日（火）、令和4年2月17日（木）に学生による授業評価アンケート項目検討WGを開催した。

## イ 審議された主な事項

- i) 令和3年度FD活動計画
- ii) 令和3年度年度計画に係る実施計画の作成
- iii) 令和3年度授業公開の実施
- iv) 令和3年度学生による授業評価の実施
- v) 令和2年度学生による授業評価報告書の作成
- vi) 令和3年度前・後期「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づく自己評価レポートの作成
- vii) 令和4年度の学生による授業評価におけるアンケート項目の改正
- viii) 令和3年度FD研修会及びFD講演会の実施

## ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

- i) 令和3年度FD研修会及びFD講演会の実施

FD研修会及びFD講演会については、FD活動の一環として、ここ数年では、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成することを目的として開催している。令和3年度は、ティーチング・アシスタント、ティーチング・サポーター及びリサーチ・アシスタントを担う学生を対象に、授業におけるアクティブ・ラーニングの実践をサポートするための理解を深める研修として、令和4年2月16日（水）に「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの具体例とTA・TSの活用（実践編）」をテー

マとして、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、オンラインでの研修会を実施した。

研修会には、アクティブ・ラーニングの積極的な導入に取り組む教職員等 47 人、ティーチング・アシスタントを中心とする学生 7 人が出席した。

また、令和 3 年 10 月 27 日（水）には「ICT を活用したアクティブ・ラーニングの具体例と TA・TS の活用」をテーマとして、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、オンラインでの講演会を実施した。

ii) 学生による授業評価に係るシステムの導入

本年度の授業評価の実施に当たっては、平成 28 年度に「機能強化促進経費」として予算措置されたことにより構築した Web 入力による授業評価アンケートシステムを導入し、授業評価の基本的な流れを変更せずに業務を効率化できるよう図ったが、より効率化を図るため、学務情報システムに統合された授業評価アンケートシステムを構築し、令和 4 年度からの運用を可能とした。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策のためオンラインでの授業を実施したことから、昨年度に引き続き、アンケートにオンライン授業に関する事項を記載した。

### ③ 優れた点及び今後の検討課題等

#### ア 優れた点

i) 令和 3 年度 FD 研修会の参加者からは「他の教員がどのように TA を活用しているか聞くことができて良かった。」や「グループディスカッションで教員と学生が意見交換できたことが良かった。」「オンラインだったがワークショップがあったため、意欲的に参加することができた。」等の、講演会の参加者からは「TA 等を活用した授業の参観を推進することが必要であると思った。」や「高等教育レベルのアクティブ・ラーニングの在り方を考えていく必要がある。」等の感想が寄せられた。

ii) Web 入力による授業評価アンケートシステムを実施し、引き続き、授業評価アンケートの効率的な実施及びコストの削減に寄与した。

また、新型コロナウイルス感染症防止対策のためオンラインでの授業実施についても対応した。

#### イ 今後の検討課題

i) Web 入力による授業評価アンケートシステムに係る回収率の向上及びシステムの充実

ii) 授業公開における参観者数の向上

iii) 今後の大学改革に伴う「教職大学院フォローアップセミナー」のあり方